

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870900192
法人名	医療法人 康仁会
事業所名	グループホーム 桃太郎
所在地	愛媛県四国中央市中曾根町994番地
自己評価作成日	平成24年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 6 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体病院が近くにある事、訪問看護ステーションとの契約、併設施設には看護師常駐であるため、24時間安心した生活を送って頂けます。緑に囲まれた自然溢れる我がホームからは、瀬戸内海が一望。海に沈む夕日は、特に美しく感動的であります。また、開設当初から一緒に暮らす愛犬ハナに、癒される日々。入居者のみなさんも、ハナが大好きです。人と動物とのふれあいを大切にし、毎日が楽しく、笑い声の絶える事の無いグループホーム桃太郎であります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

季節の花が咲き誇る緑に囲まれた山合いに位置し、事業所のリビングからは瀬戸内海が一望できる。医療機関を母体としており、老人保健施設や訪問看護ステーション等法人内での連携を密にとる事ができ、医療面での安心感がある。昨年10月の人事異動を機会に、理念の見直しをするため職員全員で話し合い、「安心・安全・楽しい我が家」という新しい理念を掲げ、ゆったり過ごせる暮らしをめざし、サービスの質の更なる向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	医療法人 康仁会 グループホーム桃太郎
(ユニット名)	_____
記入者(管理者)	_____
氏名	石川多宣
評価完了日	平成24年 5月 31日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 今年度より、利用者の状況を踏まえた、より良い理念と目標を検討し、誰もが、いつでも、どこでも、新たな気持ちで取り組んでいける理念に変更した。新たな理念のもと職員一丸となって思考及び共有し実践へとつなげている。	
			(外部評価) 昨年10月、人事異動に合わせて職員全員で話し合い「安心・安全・楽しい我が家」という新しい理念を掲げ、「皆さんがゆったり過ごせる暮らしを目指す」という目標を立て日々支援している。毎日の申し送り時や月1回のカンファレンスで確認を行い実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会長さんには、回覧板を回して頂いたり、運営推進会議には、必ずの出席を頂いている。校区内の小中高生との交流の場や、ボランティア登録により来客が増え、地域の方と一緒に楽しむ機会が多くなり親睦と連携を深めている。	
			(外部評価) 地元の中学校へ合格祈願の壁画を贈呈したり、高校生ボランティアによるワイヤアートの作成など、交流を深めている。自治会に入会し行事案内等の回覧をお願いするなど、地域とのつながりに前向きに取り組んでいる。	自治会活動が少ない地域であるが、事業所の存在を知ってもらい、地域の方の理解や協力が得られるように今後のさらなる働きかけに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) ボランティア来設後には、入居者自身でお礼の手紙を書いたり、日常にては、散歩に出掛け、ご近所の方と話したりしながら理解をいただき支援に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 会議形式では、人は集まらずを実感。地域の皆さんが興味ある事は何か？入居者の方は、何が嬉しいか？など考え、職員以外の地域・入居者家族・グループ内他部署・消防署等の協力を得て、喋る！に加え、動く！の会も多く持ち、意見やアドバイスをいただきサービスに繋げている。</p> <p>(外部評価) 消防訓練、作業療法士による転倒防止の講演等内容を工夫しながら、2か月に1回定期的に開催している。地域の方には会議案内を自治会の回覧版でお知らせしたり、家族には月末のお便りで案内を送付している。</p>	<p>地域の方や家族に働きかけ、参加しやすい時間帯の確認や日程調整を行い、できるだけ多くの参加を得て、多方面からの意見やアドバイスをサービスに反映する取り組みに期待したい。</p>
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 日頃から市役所に出向いたり、電話やメールにて、多くの相談やご指導を頂いている。担当者の方、またそれ以外の方々にも、親切・丁寧・迅速な対応をして頂き、判らず悩んだ時は迷わず連絡させて頂き、心強く安心である。</p> <p>(外部評価) 手続きや報告等で市の担当者と交流があり、電話や直接出向いて相談する関係ができています。運営推進会議にも参加してもらい連携が図れている。</p>	<p>日頃の会話や申し送り時に見守り方法を検討したり、身体拘束について勉強会を持つなど、職員が理解を深める機会を増やし、施錠を希望する家族には丁寧な説明を行い、鍵をかけないケアに向けた取り組みに期待したい。</p>
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 職員は、身体拘束についての勉強会を持ち、理解を深めている。玄関の施錠についての身体拘束の認識もしているが、施錠なしを試みるも、他入居者の方に対し支援出来ず、全家族様のご理解を得て、現在、玄関施錠中。ただ、入居者でも簡単に解錠出来る為、安全確保の為にブザーも使用しております。ただし、帰宅願望の強い方が留守の時や、落ち着いており、職員の目が行き届いている時は、施錠しておりません。良い案のご指導を、頂きたいと思っております。</p> <p>(外部評価) 事業所を一步出れば坂道が多く、目が届きにくいいため、安全を優先して玄関は施錠しセンサーを設置している。利用者には、タイミングを見て声をかけたり、一緒に歩くなど安全に配慮している。</p>	<p>日々の会話や申し送り時に見守り方法を検討したり、身体拘束について勉強会を持つなど、職員が理解を深める機会を増やし、施錠を希望する家族には丁寧な説明を行い、鍵をかけないケアに向けた取り組みに期待したい。</p>

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 何気ない些細なことも虐待に値する可能性を職員全体に伝達講習することで、皆で周知している。施設内や家族による虐待が見過ごされていないか注意しながら、日々の様子を観察している。気になる事があれば直ぐに報告し検討している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 実際に成年後見制度を利用し、関係機関への橋渡しを行い、書面以外で学ばせて頂く事が出来た。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書・重要事項説明書の正式な文章では難しい事が多いので、「入居にあたっての確認事項」と言う書類で、更に説明を加えながら、十分にご理解頂いた上で契約している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日常的に利用者やご家族の意見を多く聞くよう心掛けている。面会時でのなげない会話の中からや、家族会の開催・運営推進会議の開催で、家族や入居者の意見を聞く機会を設けている。その内容や検討事項については、後日、報告出来る場を設けている。 (外部評価) 年1回の家族会や面会時に声かけし、家族の要望等を聞いて、運営に反映させている。入居時には苦情相談の窓口を文書でお知らせし、玄関にも掲示している。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回のスタッフ会議は原則全員参加とし、入居者についてや、業務内容・その他、気になる事や気付いた事などの意見交換を行っている。管理者は職員と共にケアに携わる事で、日常の中で職員と話し合う場を多くつくり出している。	
			(外部評価) 管理者は職員と日頃からコミュニケーションを取っており、日常会話や、カンファレンス時に意見を聞くようにしている。出された意見は可能な限り反映するように、法人内の管理者会で提案している。法人内での異動についても、職員の希望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員は半年に1回自己を評価し、管理者はその評価をもとに、個々の職員と一緒に半年の評価や反省を行う。代表者は、その報告をもとに、職員の意欲向上に繋がるよう組織的に取り組んでいる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内の研修はもちろんの事、外部機関での研修にも、出来る限りの参加をしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) いろんな研修を通して交流を図れるように努めている。中でも、市内グループホーム交流会には、職員全員が順番に参加し、情報交換できるように努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査では、本人や家族の方より、生活状況や不安や要望を傾聴している。入居後は、安心して過ごして頂けるよう、ゆっくりお話しをさせて頂く機会を設けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族のプライバシーに配慮しながら、事前にゆっくりお話する機会を設ける事で、信頼関係を深めるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族様が、どのような支援を求められているかを見極め、様々なサービスを提案している。対応が難しいと思われる時には、他の事業所への紹介も行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の大先輩であるという意味を持ち、職員の知らない事や知らない事を教えて頂きながら、共に支えあえる関係作りに留意しているとともに、感謝の気持ちも伝える様している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 何かあった時だけの連絡でなく、日々の暮らしや気付きの情報を共有し、家族と職員が協力して本人を支えるよう努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族だけでなく、親戚や知人の方々が気楽に面会に来られお話しされたり、外出や、時には外食されたりもしている。また車にて、生まれ育った場所へも出掛けたりしながら、思い出が途切れないよう努めている。	
			(外部評価) 継続的な交流を支援するため、家族や知人が気軽に訪問しやすい雰囲気づくりに努めている。買い物に合わせて以前住んでいた所に立ち寄ったり、馴染みの美容室を利用する等、これまで大切にしてきた関係が途切れないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士の関係を大切にし見守る中、互いに支え合う姿が見られる。時に、入居者同士で問題が生じた時には職員が中に入り、皆が楽しく過ごせるよう対応している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) やむを得ず他施設等に入居される事となる時は、出来るだけ詳しい情報提供を行い、本人や家族の不安を最小限にできるよう努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で、本人がどのように暮らしたいかを、さりげなく確認している。本人が上手く伝えられない場合には、表情等から察したり、家族の方から情報を得る様にしている。	
			(外部評価) 日常会話の中で聞き取ったり、入浴や受診等個別の対応時にゆっくり話を聞くなど、意向の把握に努めている。困難な方はできるだけ寄り添って声かけし、表情の中からもみ取ったり、家族から情報を得るようにしている。聞き取った情報は、支援経過に記録して職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) プライバシーに配慮しながら、本人や家族からお話しを聞く様にしている。個々の人生史シートを作成してケアプランに反映し、職員間で情報を共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員間での日々の申し送りで、日常の様子を把握して情報を共有し、個々の生活のリズムを把握するようにしている。また、本人の残存能力に着目し、過介護を避けるよう心掛けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 日頃の関わりの中で、本人の思いや要望を聞き、また担当職員が気付いた点を記載し、それをもとに職員全員で話し合い、ケアプランに反映している。本人以外にも、家族の要望や意向も聞いている。</p> <p>(外部評価) 担当職員を中心に、職員全員が日々のケアの中での気づきや変化等を支援経過に記録し、計画作成者が面会や電話で家族の要望を聞き取り、介護計画に反映させている。月1回のカンファレンスで職員全員で意見交換をし、モニタリングを行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個人記録に日々の様子を記録し、特に重要であると思われる事等は、加えて申し送りノートに記録し、個々の情報を共有している。ケアプランに沿った評価も毎日行い、実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 法人内のグループホームの方々との交流や、隣接する施設のイベントに参加させていただきながら、楽しんだり良い刺激を得ている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 自治会・市民ボランティア・行政の方々の協力を得ながら、運営推進会議を開催したり、コンサートや展覧会などのイベントに参加している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 事前調査にてかかりつけ医の確認を行い、継続した医 療を受けていただけるようにしている。定期受診につ いては、同法人の医師にて行き、職員が同行してい る。緊急時における救急措置についての要望等、事前 に話し合っている。	
			(外部評価) 同意を得て、運営法人の病院の医師がかかりつけ医に なっていることが多い。定期受診は職員が同行し、内 容はその都度家族に電話で報告している。訪問看護に よる健康管理や週1回の病院でのリハビリの状況は、 毎月家族に郵送し、安心して医療を受けれるよう支 援している。救急措置についても家族と書類を取り交 わしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 法人内の訪問看護ステーションとの契約を結び、週5 回、バイタルチェックによる健康管理を行い、異常の 早期発見を心掛けている。夜間や緊急時の対応も可能 であるが、緊急時には、併設施設の看護師にも協力の 依頼をしており24時間対応可能な状態になってい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、入居中や入居前の情報提供を行って いる。入院中は、お見舞いや病院関係者や家族の方と連 絡をとりながら病状の把握に努め、早期退院に向けて アプローチしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りマニュアルは作成してあるが、看取りの経験は ない。入居者家族からも、看取りについての質問は受 けた事がないが、今後、職員には看取りについての知 識や技術を学ぶ必要があるように思われる。	
			(外部評価) 看取りのマニュアルは作成しているが、介護度が軽い 利用者が多い事や運営法人の病院や老人保健施設との 連携があるため、看取りの具体的な事例には至ってい ない。家族等へ事業所の方針や医療連携の説明など、 早い段階からの話し合いに取り組もうとしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命講習を受講したり、マニュアルを作成し、急変時や事故発生時に備えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、消防署の方と共に、地域・併設施設の協力を得て、防火訓練を行っている。職員と入居者だけでも、毎月の避難訓練を行っている。 (外部評価) 年2回、消防署・自治会長・老人保健施設の協力を得て防火訓練を行い、毎月、利用者と職員で避難訓練を行っている。5月に夜間想定で訓練を行い、利用者の誘導方法や協力体制の課題を話し合っ、見直しを進めている。	職員だけの誘導には限界があり、早急に地域の方の協力体制の強化や地域の方を含めた緊急連絡網の見直しが望まれる。訓練後の反省点を活かし、非常口の鍵の設置場所を含めて全職員で話し合い具体的な支援体制の整備に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員は、入居者の誇りやプライバシーを損ねない対応に心掛けている。個人情報の取り扱いに関して、日頃より、職員全員で確認している。 (外部評価) 入浴や排泄時の対応には特に気をつけている。職員同士で確認し合い、さりげない声かけでプライバシーを損ねないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員が決めた事を無理に押し付けず、本人自身で決める事が出来る様、雰囲気作りを心掛けている。意思表示の難しい入居者の方には、表情を読み取り、意思に近づける様、声掛けしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 集団としての流れを重視するのではなく、どんな事がしたいのか等、本人の意向を聴き、個別ケアを重視した取り組みを行う様にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人が洋服の選択が出来る場合は本人に任せ、選択困難な方には、好みの洋服が着れるよう援助している。身だしなみが不十分な方には、さりげない声掛けや、さりげなく手直しを行ったりもする。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 朝食以外は、併設施設で調理されたものを、一緒に盛り付け・配膳している。食後の下膳は、個々に流し台まで運び、職員と一緒に食器洗いをしたり、テーブル拭きをしたりされている。	
			(外部評価) 併設の老人保健施設で調理され、利用者と職員で盛り付けや配膳を行っている。利用者と職員は一緒に食卓を囲み楽しく会話しながら食事をとっている。下膳や片づけも利用者と一緒に行っている。月1回の法人内の給食会議で、利用者の好みや希望を話し合ってサービスに反映させている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 管理栄養士のもとで、カロリー計算されたバランス良い食事を、個々にあった形(常食・刻み等)で、提供している。水分補給も、定期的に行う他、自由に摂取できるよう配慮している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の口腔ケアの声掛けや、毎日あるいは、週に1回の義歯消毒。義歯以外の方には、朝晩の歯磨き声掛けと、見守りにて、口腔内清潔保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 自力排泄困難な方には、排泄パターンを把握し、さりげないトイレ誘導を行っている。個々の状態に合わせた尿取りの大きさや、使用時間とし、出来るだけ自然な形で不快・不安を与えないよう考慮している。	
			(外部評価) 毎日の排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、できる限りトイレで排泄できるよう支援に取り組んでいる。ほとんどの方が紙パンツを使用しているが、トイレ誘導でほぼ自立している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の予防として、主治医より緩下剤を処方して頂いたり、水分補給に留意している。薬にたよらず、散歩や体操などを、毎日行う様になっている。入浴時や誘導時に腹部マッサージも行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週3回以上の入浴を原則とし、職員1人の夜間以外に、お一人ずつ、ゆっくりと入浴を楽しまれている。日により、入浴剤を替えたりしながら、温泉気分を楽しんだりできるよう工夫している。	
			(外部評価) 毎日、午前中に入浴時間を設け、2日に1回は入浴できるようにしている。利用者一人ひとりの希望や状態に合わせて対応し、声かけや入浴剤などを工夫して、ゆっくり入浴を楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間の睡眠を促すためにも、日中は、個々の体調に注意しながら、出来るだけ活動を働きかけるようしている。昼食後には、午睡の時間をもうけ、休息をとっていただきながら、日々の生活リズムを整えるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人記録に服薬している薬の詳細紙をファイルし、いつでも確認できるようにしている。薬の変更時には職員に申し送り、周知するようにしている。特に服薬変更時には、体調の変化に気をつけている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 得意分野や、その方の出来る事に着目し、1人ひとりの力と残存能力を発揮できるよう、家事や仕事の手伝いをお願いし支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩や庭先での外気浴は日課となり、楽しまれている。毎週金曜日には、リハビリのため法人内病院に車で出掛け、新聞や市報などで情報を集めては、ドライブや、外食・買い物に出掛けたりして気分転換したりしている。	
			(外部評価) 事業所の周りを散歩したり、新聞の折り込みを見て買い物に出かけたり、併設の老人保健施設の売店に行くなど、その日の希望に沿って外出を支援している。ドライブは全員参加できるようにし、運営法人の他のグループホームと合同で外食や季節を感じられる場所を選定し楽しんでいる。個人的な希望にも対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご自身で少額の金銭管理をしている方も数名おられ、買い物の際には、自分で会計をすましている。併設施設の自動販売機や売店を利用されたりもしている。自己管理の難しい方が多く、基本的には預かり金を施設で管理し、月末に、金銭出納帳のコピーを家人に送っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族や知人に手紙を書いたり、ホームの電話を気軽に使用して頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) リビングや玄関、要望があれば、居室にも生け花を飾ったり、入居者達が協力してつくった壁画を飾っている。2階には談話できるスペースを設け、入居者同士や、家族・知人の面会時に利用している。自然の中、庭にての食事を楽しんだりして、季節を楽しみ味わいながら、心地良く過ごせるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 1階のリビングは明るく、レクリエーションで作った季節感のあるものを飾っている。窓からは山や海が見え、夕日を満喫できる憩いの空間になっている。2階はエレベーターで自由に昇降でき、談話できるスペースが利用者や家族の交流の場となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 1人になれる居室には、馴染みの物を持ちこまれたり、2階にも、テーブルとソファやテレビを置き、入居者同士が自由にくつろげるようにしている。庭にもベンチを置き、外を楽しむ事も出来るようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家族の写真や、本人の馴染みの品を持ち込み、居心地良く過ごせるよう配慮している。テレビ等を設置し、楽しまれている方も、おられる。</p> <p>(外部評価) 衣類等が整理できるクローゼットが設置され、居室のスペースが広く利用できる。利用者が使い慣れたものや好みの物を持ち込んだり、状態に合わせた配置にするなど、工夫して居心地良く過ごせるようにしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) リビングや居室はバリアフリーになっており、廊下やトイレには手すりを設け、安全に移動し過ごせる設備を整えている。居室やトイレの把握が難しい方には、大きな表示や、目印を飾ったりしている。</p>	